

発生箇所	②横目地
分類	設計
参考箇所	4-8-9 特殊箇所の施工

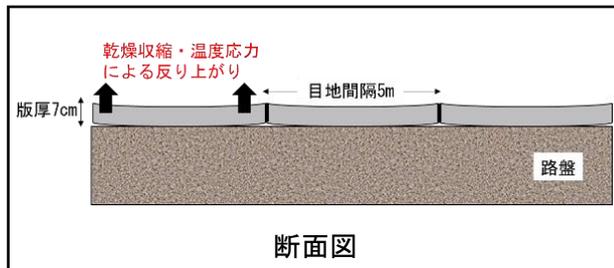
●内容

- トンネル内の歩道（普通コンクリート舗装）端部にそり上がりによる段差が生じた。



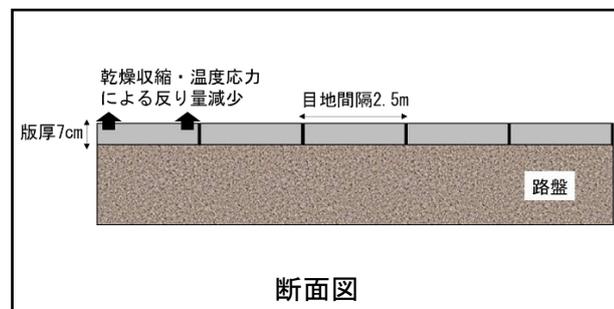
●原因

- 歩道舗装なので厚さ7cmと薄層であった。
- 目地間隔が5mと長かった。
- 湿度が低かったため、表面側の乾燥収縮量が大きくなった。
- 単位水量の多い構造物用レディミクストコンクリートを使用したため、収縮量が大きくなった。



●発生防止策

- トンネル内では目地間隔を2.5m程度とし、相対的なそり量を小さくする。
- 十分な湿潤養生を行う。
- 石灰岩の使用や1.0%程度の鉄筋比になるよう鉄網設置を検討する。石灰岩を使用する場合はすべり抵抗性の確保に配慮する。



●発生した場合の対応策

- 目地間隔が2.5m程度になる位置にソーカットによって横目地を追加して、相対的なそり量を小さくする。
- 研削機などによって凸部分を切削する場合は、版厚減少による応力増加に配慮する。
- そり上がりによって路盤とのすき間が生じ、バタつく場合は注入工法（アンダーシーリング）による空隙充填を行う。

